

心をよめる

第二十五

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。



仏教（仏さまの教え）を聞くということ

「普通の日々も私の大切な足跡」^{あしあと} ある月の法語カレンダーの言葉より

私たちにとって「普通の日々」とはどんな日々でしょうか。「平凡な」とか「ありふれた」という言葉に言い換えられ、また、それは、特に変わったこともない生活と考えるのではないのでしょうか。そんな平凡でありふれた生活を私たちは標題のように「大切だ」と思うのでしょうか。

また逆に、私たちの日常には、時に思いもよらない（普通とは思えない）ことが起こります。特に、昨今多発する自然災害。その時、私たちは「何でこんなことが起こるの」「ありえない」と言い、自分が考えていた普通とはかけ離れた現状に右往左往し、そんな状況を当然「大切だ」とは受け止められません。

仏教では「諸行無常（しよぎょうむじょう）」ということを教えます。そ

れは、端的に言えば「あらゆるもの移り変わっていく」という意味です。さて、そこで、この仏教の「諸行無常」「あらゆるものは移り変わっていく」という教えを聞かれて皆さんはどう思われますか。

私たちの身の回りの状況や自分自身の姿を見れば、その教えの意味は何となく納得できるのではないのでしょうか。しかし、仏教として説かれる上では、「あらゆるものは移り変わっていく」という私たちがそれなりに納得できる意味だけでは教えにはなりません。極端に言えば、人間知恵で納得できるならば、教えは要りません。仏教を聞く意味はありません。ではなぜ教えは説かれたのか。なぜ私たちは教えを聞いていかなければならないのか。それは、私たちに、常に、知らせ



浄土真宗本願寺派 真教寺住職
星野 奏真 さん

「それぞれに仏教を聞くご縁を結びましょう」



浄土真宗本願寺派 真教寺
鞍手御鞍手町永谷 901
(0949)-42-0860

や安らぎが生まれるのだということをお話しています。

「普通の日々も私の大切な足跡」という法語は、改めて私自身のかたよったものの見方を問うものであり、また、仏教を聞くということは、今の私に光が当てられるということ。それは、「いつでもどんな時のあなたも尊い」と、一つ一つのいのちが受け止められているということです。そのことを、常に、知らせてくれるのが仏教です。



真教寺のinstagramです
よろしければ一度ご覧ください